

農村工学技術研修の開催

技術移転部技術研修室

1. はじめに

今年度実施する農村工学技術研修のうち、6月までに実施予定の研修は全て計画通りに研修を行いました。しかし、農林水産省農村振興局主催で農工研を会場とした研修において新型コロナウイルスの感染者が発生しました。今後の研修についても、新型コロナウイルスに対する対策をしっかりと行った上で研修を実施していきたいと考えております。

2. 農村工学技術研修(農村防災・減災技術指導者)の実施

5月22日(月)～26日(金)の期間、参加人数16名(府県：10名、土地連6名)で実施しました。

研修内容は、ため池決壊時の氾濫解析を行うソフト「SIPOND(エスアイポンド)」を使って氾濫解析を行い、その結果の妥当性と下流域の被災リスク等を検討した上で、GISソフトを用いて浸水想定区域図を作成する演習等を行いました。

なお、研修内容を即時に活かせるよう研修期間を梅雨等の出水期前の5月に実施することとしました。

3. 農村工学技術研修(ダム機能保全Ⅰ、Ⅱ)の実施

ダム機能保全Ⅰについては、5月29日(月)～6月2日(金)の期間、参加人数15名(国：11名、府県：4名)で実施しました。研修内容は、ダムの関わる調査・設計・施工等の建設技術に関する講義を行いました。

ダム機能保全Ⅱについては、6月5日(月)～8日(木)の期間、参加人数10名(国：8名、県：2名)で実施しました。研修内容は、堤体の安全管理、耐震性照査等に関する講義及び機能診断に関する現地実習等を行いました。

4. 農村工学技術研修(経済効果Ⅰ. 理論)の実施

6月19日(月)～23日(金)の期間、参加人数39名(国9名、府県：18名、独法2名、土地連10名)で実施しました。

研修内容は、費用対効果分析、政策評価、効果計測手法、各種経済効果の算定等に関する講義等を行いました。

なお、本研修は、効果算定業務等を担当することとなる都道府県・土地連職員の受講希望者が多く、昨年度は応募定員の約5倍の応募があったため、今年度は定員を従来の20名から40名へ倍増し、講義会場もソーシャルディスタンスが確保できる農工研本館5階大会議室を使用しました。



ダム機能保全Ⅱ 現時実習状況